

ネギ葉先枯れ症は有機質肥料施用によって抑制できる

福島県農業総合センター 生産環境部作物保護科

1 部門名

野菜－ネギ－生理障害

2 担当者

鈴木洋平・穴戸邦明・堀越紀夫

3 要旨

ネギ葉先枯れ症の発生により、生育不良が問題となっている(図1)。ネギの葉先枯れ症の発生は、温度や灌水条件に影響されることが知られており、生理障害と考えられている。2009年から2010年にかけて、土壌及び施肥条件がネギの葉先枯れ症の発生に及ぼす影響を検討した。その結果、発生原因を特定するまでには至っていないが、有機質肥料を施用することでネギ葉先枯れ症の発生を軽減できることが明らかとなった。

- (1) ネギ葉先枯れ症の発生部位からは高率でネギ葉枯病菌が確認できた。しかし、葉枯病に対し有効な殺菌剤を散布しても抑制できないことから、葉先枯れの発生は生理的な要因が影響しているものと考えられる。
- (2) 灰色低地土、褐色森林土、褐色低地土、黒ボク土の4土壌では、それぞれの施肥条件の発生割合に同様の傾向がみられ、黒ボク土では施肥条件による発生割合の差が小さい。
- (3) 有機質肥料区、硫安区、肥効調節型肥料区、硫安減肥+牛糞堆肥区の4施肥条件では、どの土壌においても有機質肥料区の発生割合が低い。



写真 ネギ葉先枯れ症

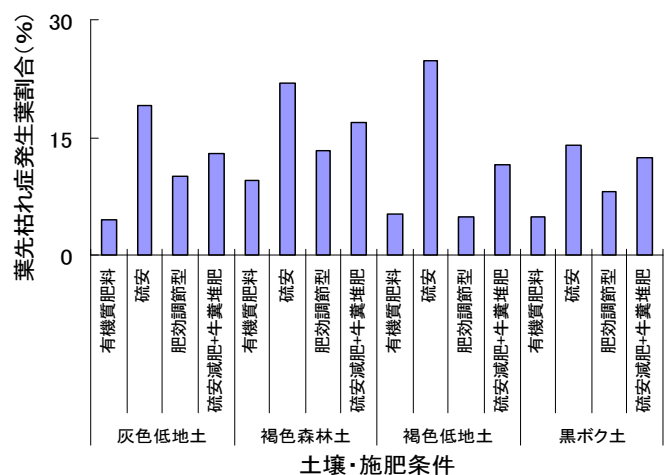


図2 土壌、施肥条件がネギ葉先枯れ症の発生に及ぼす影響 (2009年)

注) 有機質肥料区は有機アグレット666、硫安区は硫安、過リン酸石灰、硫酸カリ肥効調節型肥料区はエコロングM424 100日タイプ、燐酸安カリs555を供試した。

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成21年度～22年度センター試験成績概要